

血液培養の陽転化時間の検討

◎若杉 茉奈¹⁾、西尾 美津留¹⁾、関 芳恵¹⁾、大杉 崇人¹⁾、藤田 智洋¹⁾
小牧市民病院¹⁾

【はじめに】血液培養の陽転化時間は起炎菌の判断や菌種の推定にしばしば重要な情報になり得る。そこで血液培養陽性検体の菌種別陽転化時間について検討した。

【対象・方法】期間は2021年1月から2023年3月とし、血液培養装置はBactec FX、血液培養ボトルはBDバクテック™23F好気用レズンボトルP、™22F嫌気用レズンボトルP、™20F小児用レズンボトルP（日本ベクトン・ディッキンソン株式会社）を用いた。当院において血液培養から検出数が多い上位21菌種について、①菌種別陽転化時間の比較、②*Staphylococcus epidermidis*、コアグラーゼ陰性ブドウ球菌（CNS）、*Corynebacterium striatum*における感染例/汚染例の陽転化時間の比較検討（Mann-Whitney' U検定）③*Pseudomonas aeruginosa*と腸内細菌目細菌における陽転化時間の比較検討（Kruskal-Wallis検定）をした。全て最初に陽転化したボトルにて集計し、いずれも複数菌検出例は除外した。

【結果】①平均値(h),中央値(h) (IOR)の順に、*Escherichia coli*(n=452)16.4,11.0(10.0-14.0)、*Staphylococcus aureus*

(n=233)20.9,15.0(11.0-23.0)、*Klebsiella pneumoniae* (n=190) 18.1,11.0(10.0-15.0)、*P. aeruginosa* (n=55) 24.2,18.0(16.0-27.0)、*Citrobacter freundii complex* (n=27) 18.4,13.0(11.0-17.0)、*Proteus mirabilis* (n=23) 22.3,13.0(10.0-19.0)、*Enterobacter cloacae complex* (n=23) 14.8,12.0(10.0-13.0)であった。②感染例/汚染例の順に、*S. epidermidis*(n=26/70)、CNS(n=22/88)、*C. striatum*(n=11/7)であり、CNSと*C. striatum*では感染例と汚染例の陽転化時間に有意差を認めた。(p値=0.019,0.006)。③*P. aeruginosa*と腸内細菌目細菌はそれぞれ陽転化時間に有意差を認めた。

【考察】血液培養の陽転化時間は菌種毎にばらつきを認め、緑膿菌と腸内細菌目細菌のように有意差を認めたものもあった。また一部の菌種においては感染例/汚染例で陽転化時間に有意差があり、鑑別する際の一助になり得ると考えられる。

連絡先：0568-76-4131（内線3110）